

新学長ご挨拶

電気通信大学長 田野 俊一

4月より学長に就任した田野です。本学は一昨年、創立百周年を迎えました。これまでの一世紀は正に「電気通信」の時代であり、これからの百年も「情報通信技術」は社会の基盤を支えるとともに、Innovationの原動力ですから、本学の重要さはより一層大きくなります。

近年、Society5.0（超スマート社会）実現に向けて世界的な研究が加速しています。政府がまとめたSociety5.0の基盤技術は、全て本学がカバーしており、本学が輝く絶好の好機なのですが、残念ながら生かし切れていません。

そこで「D.C.&I.戦略」を策定し、本学の教育、研究などすべての面において発展を加速しようとしています。Diversity（多様性）とCommunication（相互理解）、Innovation（イノベーション）で表されるD.C.&I.戦略は、一見ごく普通の標語にも思えます。しかしD.C.&I.戦略は、選択と集中、応用研究（実用的な研究）偏重、大学統合などといった世の安易な風潮に抗し、「規模の小さな単科大学」であればこそ発揮しうる「個性化」を意図しています。例えば、専門分野を異にする研究者間のコミュニケーションの活発な本学が、規模が大きいだけの大学より優位に立ちうることを言外に主張しているのです。

この新たな取り組みには資金が必要ですが、政府からの支援拡大は期待できません。そのため、本学も含め、国立大学は全て外部資金獲得強化に大きく舵を切っています。さらに、本年6月には「東京大学が資金調達のために初めて債券（大学債）を発行」のニュースが駆け巡ったように、ついに大学債を発行するまでに至っています。

一方、米国の有力大学に目を向けると、共同研究費等の外部資金獲得額と寄附金が同じ規模であり、寄附金を原資とした基金の運用益も莫大なのです。

前置きが長くなってしまいましたが、本学の発展のためにぜひご寄附をお願いします。本学は、昨年度1年間で約1億4千700万円、本年5月29日から開始した「コロナ禍から学生を守り救い支援する募金」では6月末現在で700万円を超えるご寄附を頂きました。今後もこれを上回るペースでご寄附を頂ければ、現在実施している給付型奨学金、海外派遣助成などの学生支援を大幅に拡充できるとともに、本学をSociety5.0（超スマート社会）の世界的拠点化にする取り組みを加速することができます。ご協力をお願いします。



大学基金の近況報告

大学基金責任者・理事（経営・広報戦略担当） 植村 隆

今般のコロナ禍へのお見舞いと共に、平素よりの本学へのご支援に厚く御礼申し上げます。また、別紙（黄紙）の「コロナ禍から学生を守り救い支援する募金」への早速のご寄附を賜り、重ねて感謝申し上げます。大変ありがとうございます。

さて、ここでは、本学より基金について2つだけお知らせを致します。

1 令和2年3月に、本学基金で第1号となる「遺贈」によるご寄附をいただきました。

前年度初、遺贈受入体制を整えたばかりですが、本学卒業者（故人）のご夫妻様より、「遺言信託」での本学基金への多額のご寄附をいただきました。その顕彰として、このほど新設した、本学独自奨学金にお名前等を「名札」として一定期間掲げる「名札奨学金」制度の最初の適用となりました。なお、遺贈については、有価証券、不動産等も換金せず原物のまま寄附いただけるよう「現物資産活用基金」も設置しておりますので、「名札奨学金」制度も含め、お気軽にお問い合わせ下さい。

2 大学基金への定期継続のご寄附者を募っています。

定期継続寄附による寄附収入の安定性は、学生への支援事業を企画し、継続するうえで信頼性の高い財務的裏付けになりますので、多くの方に、毎月1,000円以上の継続寄附会員にもなっていただけるよう本学は努めます。奮ってご登録下さい。

最後に、斯様な世情ですが、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。本学は、皆様のご寄附を有効に活用させていただきながら、学生の安心安全で高水準な教育研究環境の確保と本学の発展に今後とも尽力してまいります。

電気通信大学 総務企画課 基金・卒業生係

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL：042-443-5132

（平日9時から17時まで）

メールアドレス：kikin@office.uec.ac.jp

古本募金 本でつなぐ未来プロジェクト」にもご協力ください

基金についての最新情報はWebをご覧ください <http://www.uec.ac.jp/kikin/>



インターネット利用による
ご寄附のお申込みはこちらです



継続的なご協力をお願いいたします。